

《平成24年度 薩摩川内市事務事業評価表》

<b>1 事務事業の位置付け(Plan)</b>				内部評価者名 課長・室長・支所長	中島 哲 郎
事務事業名	薩摩川内市文化財少年団事業			担当者	藤井 法 博
所管部課名	教育部	文化課		事業の根拠 (根拠法令)	文化財保護法
事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> ソフト事業 <input type="checkbox"/> 建設・整備事業 <input type="checkbox"/> 施設管理 <input type="checkbox"/> 内部管理				
総合計画上の 位置づけ	施策の 基本方針	政策 (章)	地域の特色を活かした教育・文 化のまちづくり	主要施策 (節)	地域文化の保存・継承
				施策 (項)	文化活動の推進
予算科目等	会計	一般会計		教育費	
	項	社会教育費		文化振興費	
	事項	文化財保護事業費	細事項	文化財保護事業費	

**事業の概要**

未来を担う子どもたちに、普段の生活や学校教育の中だけではなかなか接することができない文化財に触れる機会をつくる。年間を通して、公募によりメンバーを固定し、各回でテーマを定め、文化財の散策を主に行う。

**2 事務事業の実施 (Do)**

事業の内容	対象 (誰を、何を対象とする事業か)	市内の小学4年生～中学3年生		事業開始年度			平成19年度	
	手段 (市がどのような活動をするか)	年6回、テーマを定め、主に市内の文化財を散策する。	活動指標 (市として何を 行うか?)	指標名	①	活動回数		
				最終目標値	②	6回/年		
	意図 (どのような目的で事業を行うか)	先人の生活、郷土の歴史を学び、ふるさとを再発見し、郷土を愛する心を育むことを目的とすると共に、後継者育成にもつないでいく。	成果指標 (活動をした上で、目標となる成果をどのように設定するか?)	最終年度	①	(平成26年度)		
指標名				②	参加者数(延べ)			
				最終目標値	①	100人		
				最終年度	②	(平成26年度)		
コスト・指標の推移	項目	単位	平成22年度 決算	平成23年度 決算	平成24年度 (見込み)	平成25年度 (見込み)	平成26年度 (見込み)	
	事業費	国・県支出金	千円					
		その他						
		一般財源		74	64	84	84	84
		合計(A)		74	64	84	84	84
	従事職員数	人	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	
	人件費(B)	千円	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	
	従事嘱託員数	人						
	人件費(C)	千円	0	0	0	0	0	
	トータルコスト	千円	1,674	1,664	1,684	1,684	1,684	
活動指標の推移	①	回/年	6回/年	6回/年	6回/年	6回/年	6回/年	
	②							
成果指標の推移	①		73人	40人	60人	80人	100人	
	②							

**事業費の主な支出内容(事業内容がわかるよう、支出する主なものを記入してください)**

消耗品費(少年団員Tシャツ、帽子、ネーム等)  
使用料及び賃借料(バス借上料)

**3 事業の視点別評価 (Check)**

対象・手段の妥当性     妥当である     改善の余地はある     妥当でない

妥当性	(上記選択の理由) 資料2 学校の現在の教育課程では、郷土史を学ぶ時間は少ない。単発で行うよりも年間でメンバーを固定して行うことで、学ぶ姿勢も向上し、郷土史はもとより、郷土愛を育む効果が期待できる。
	市が関与すべき妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 市で実施すべき <input type="checkbox"/> 民間でも可能 <input type="checkbox"/> 民間で実施すべき
効率性	(上記選択の理由) 単発な史跡めぐりであれば、民間でも十分可能だが、少年団については、育成というコンセプトがあるので、教育委員会で行うのが妥当である。
	事業費の削減余地 <input type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> ある程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地はない
有効性	(上記選択の理由) すでに最低限の予算で行っており、これ以上の削減の余地はない。
	人件費の削減余地 <input type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> ある程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地はない
有効性	(上記選択の理由) 子どもたちの監督を行ううえで、これ以上の削減の余地はない。
	成果の達成度 <input type="checkbox"/> かなり高い <input checked="" type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> 低い
有効性	(上記選択の理由) まちづくりを行ううえで、地域の歴史や文化については必要不可欠なカテゴリである。文化財少年団の活動を通して、少しでも多くの子ども達に自分たちの郷土のことを知ってもらい、文化財保護はもちろん、将来的に薩摩川内市のまちづくりに活かされることが期待できる。
	成果の向上余地 <input type="checkbox"/> かなりある <input checked="" type="checkbox"/> ある程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない
有効性	(上記選択の理由) 継続率は高いが、新規団員と卒団員がイコールに近いため、目標値の20人に届かない年度もある。しかし、継続率が高いことから活動については、満足してもらっていると考える。
<b>4 事業の改革・改善の方向性 (Action)</b>	
内部評価 (一次)	①今後の改革の方向性 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの上で継続 ⇒ 今後の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 他の事業と統合 <input type="checkbox"/> 手段の改善 <input type="checkbox"/> 移管 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止
	②上記方向の理由 平成19年度にスタートした際に加入した5年生が昨年度卒団し、高校生となり、サポーターとして手伝ってくれている。団員は固定化しており、新規団員の確保がなかなか難しいが、概ね15名程度毎年団員となっている。残念ながら、中学生になると部活の合間に出席するため、出席率が低いことから、出席率を高くすることを検討していきたい。
	③改革・改善の内容とそれを実施していくための手段・計画 「知る」「触れる」「体験する」といった「受け」に重点を置いた活動を主体としている。まず、知ってもらうことが大事である。経験してもらうことによって、1人でも多くの子どもたちが、郷土の歴史やそのほか自然史等に関しても学ぶ機会を設けていきたい。 これまで年間を通して団員は募集しているが、今後は、随時小中学校にも周知するようにし、また、再度団員にも参加できるようにスケジュールの調整やアンケートを実施していきたい。
内部評価 (二次)	評価者名 教育部長 田畑逸郎
	①内部評価結果 妥当性 ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> 高い <input type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> 低い 効率性 ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> 高い <input type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> 低い 有効性 ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> 高い <input type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> 低い
	②今後の改革の方向性 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの上で継続 ⇒ 今後の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 他の事業と統合 <input type="checkbox"/> 手段の改善 <input type="checkbox"/> 移管 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止
	③上記の改革・改善の内容とそれを実施していくための手段・計画(内部評価一次と違う部分) 事業の広報・周知と更なる団員の増加策の検討